

計画策定までの流れ

中央地区の強み

- ・公共機関が多い。
- ・中央コミュニティセンターでの活動がさかん。
- ・イベントが多く、にぎやか。
- ・飲食店が多い。
- ・バス路線が多い。
- ・住民主体の活動が活発で結びつきが強い。
- ・三世代の同居が多い。

(地域ケア会議等を活用して抽出)

抽出された課題

- ・気軽に活用できる活動拠点が少ない。
- ・子どもが安心して遊べる場所が少ない。
- ・ひとり暮らしの高齢者が多いため、孤独死のリスクが高い。
- ・公共交通機関はあるが自転車での移動が多い。ため、高齢者は買い物や病院への利用が不便。
- ・要介護認定率が高い。

(地域ケア会議等を活用して抽出)

目指す地域の姿

■目指したい地域の姿の意見を出し合った中から、計画のタイトルを決めました。

- ・ひとりひとりが役割を持ち、住んでいて良かったと思うまちを目指します。
- ・みんなが顔見知りでお互いに助け合えるまちを目指します。
- ・地域で安心して暮らせるような仕組みを作り、住みやすいまちを目指します。

実現のために取り組むこと

■3つの基本目標に課題を分類し、その解決と、目指す地域の姿を実現するために、地域で取り組む具体的な内容を導き出しました。また、地域の誰が中心に、いつまでに取り組んでいくかも決めました。

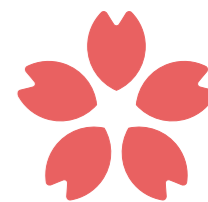
計画の完成

中央地区福祉のまちづくり計画策定委員(中央地区社会福祉協議会)

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	篠原 秀夫	会長	8	影山 房與	理事
2	宮本 隆昌	副会長	9	福田 恵子	理事
3	石塚 朋子	副会長	10	木島 伸子	理事
4	田村 和之	会計	11	今泉 知明	理事
5	渡邊 義克	理事	12	谷津 義男	監事
6	阿久津 茂子	理事	13	中村 明宏	監事
7	高橋 薫	理事	14	板垣 博史	事務局



中央地区 福祉のまちづくり計画



《令和7年度～令和9年度(3年間)》

福祉のまちづくり計画って？

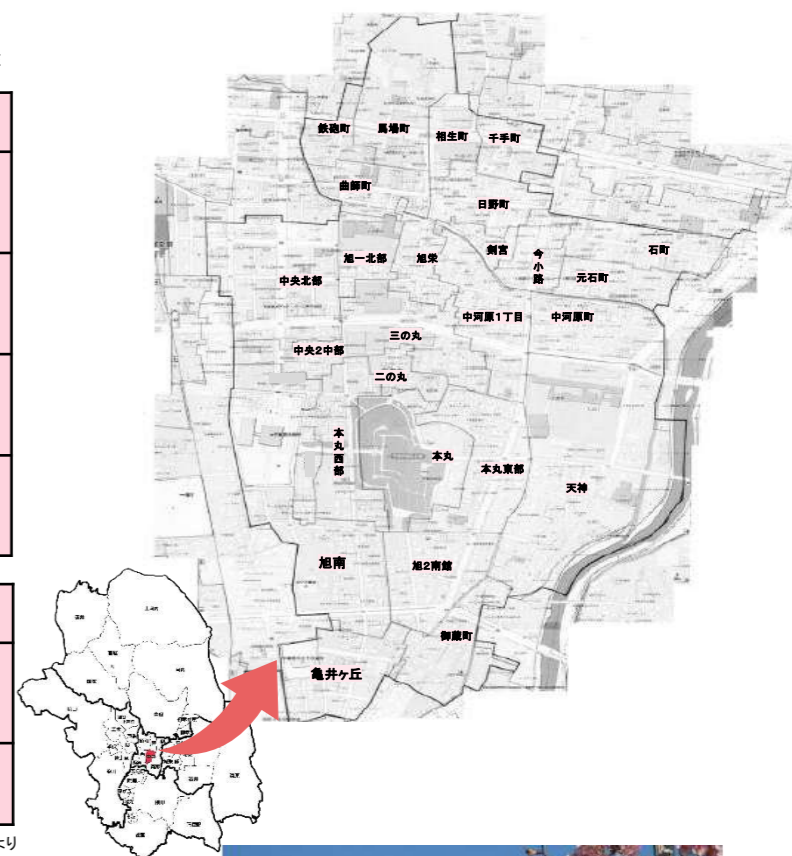
地区の福祉課題を把握し、その解決のために今後どのような活動に取り組んでいくのか、また、将来の姿を見据えて「福祉のまちづくり」をどのようにすれば実現できるのかを、地区のみなさんで話し合い、中期的(3～5年程度)にまとめた計画です。

中央地区の現状

※1:令和4年10月1日現在
※2:令和4年12月末日現在

	中央地区	宇都宮市
人口	年少人口 7.7(%)	★64,953人※2 12.6(%)
	生産年齢人口 58.5(%)	★318,110人※2 61.5(%)
	高齢者人口 (高齢化率) 33.8(%)	★134,434人※2 26.0(%)
	中央地区 合計	★517,497人※2
	自治会数	★26
自治会加入 世帯数	★1,341	★128,655
全世帯数	2,979※1	241,965※1

★宇都宮市オープンデータカタログ「年齢3区分別人口と年齢構造推移の推移」より
★宇都宮市自治会連合会データより(令和6年7月現在)



中央地区の歴史

「歴史の街」中央地区の中心に位置するのが二荒山神社と城址公園である。二荒山神社は下野国一之宮として人々の信仰を集め、天王祭、菊水祭など市内多くの祭はこの神社に由来している。特に源頼朝や豊臣秀吉などの武将から厚い崇敬を受け、日本の歴史の転換点において何度か表舞台に登場することとなった。

宇都宮城は江戸の北の押さえとして、また奥州街道と日光街道の分岐点として重要な位置を占め、家康の長女亀姫が嫁いだ奥平家など名だたる譜代大名が歴史の城主に務めた。家康の側近であった本多正純のときに城下町が整備され、釣天井の伝説も残る。幕末には激しい攻防戦が2度にわたって繰り広げられ、土方歳三らが闊歩した。自治会名にも城下町にちなむ町名が多数残されている。



▲宇都宮城址公園

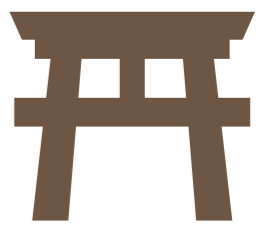


▲家族ふれあいのタベ

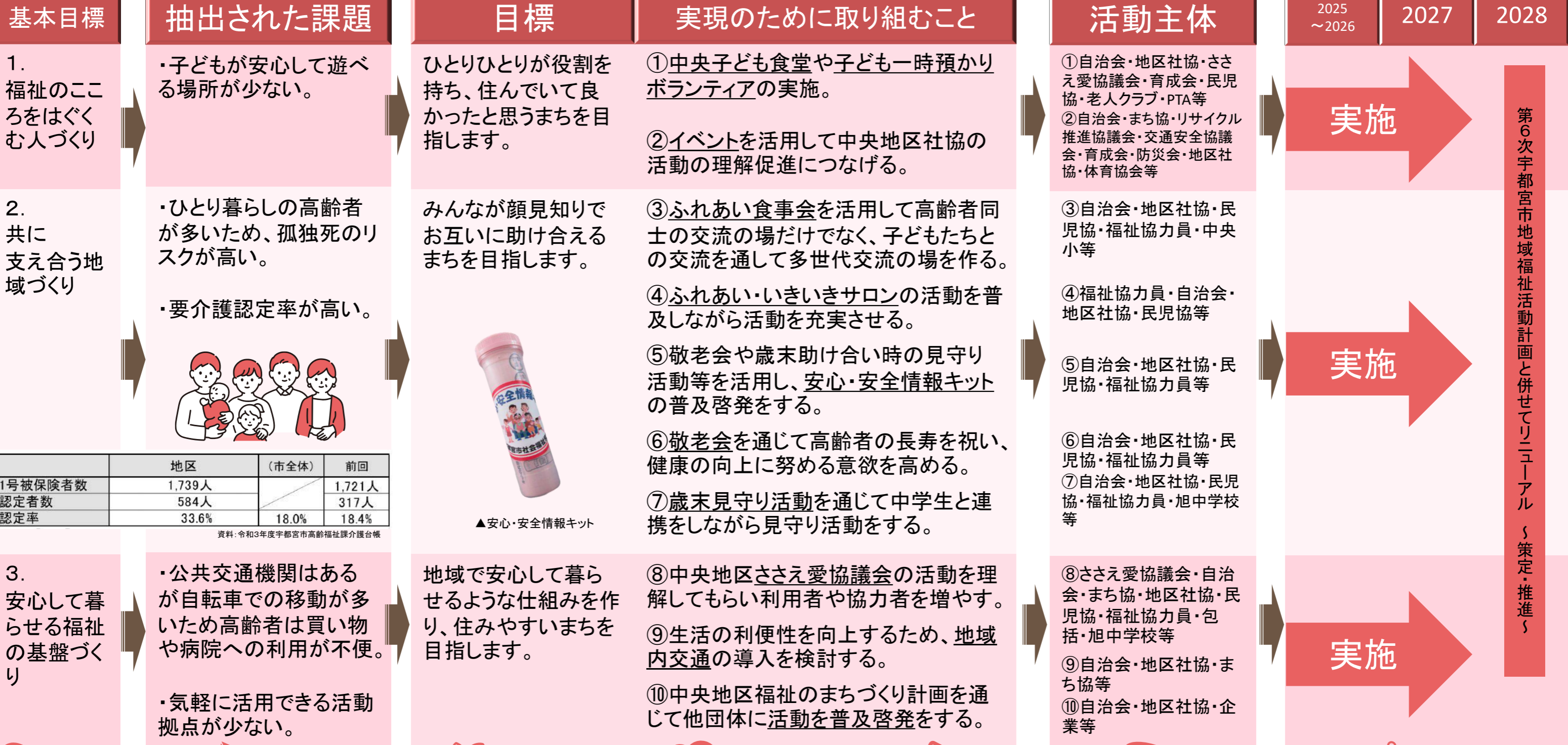




みんなが安心して住める中央地区にしよう！



地区の皆さんから出された地区の課題を整理して、目指す地区の姿を考え、それを実現するために必要な取り組みと、地区の強みを生かした、具体的な実行計画を立てました。(年度)



第6次宇都宮市地域福祉活動計画と併せてリニューアルし、策定・推進し

	地区	(市全体)	前回
1号被保険者数	1,739人		1,721人
認定者数	584人		317人
認定率	33.6%	18.0%	18.4%

資料：令和3年度宇都宮市高齢福祉課介護台帳



▲安心・安全情報キット

